

住み続けたい市に

日田市は4日、市内のパトリア日田で、自治基本条例（昨年4月施行）に基づく市民まちづくり集會を初めて開いた。条例は市民参加と協働のまちづくりを理念としたもの。地方創生について熱い議論を交わした。

日田市民まちづくり集會

参加者は市の無作為抽出や公募に心した66人。情報提供などを担当する野祐二・市企画部長が「地方創生では地方の企画力、知恵、本気度が問われている。自由な発想を多く出してほしい」とあいさつした。

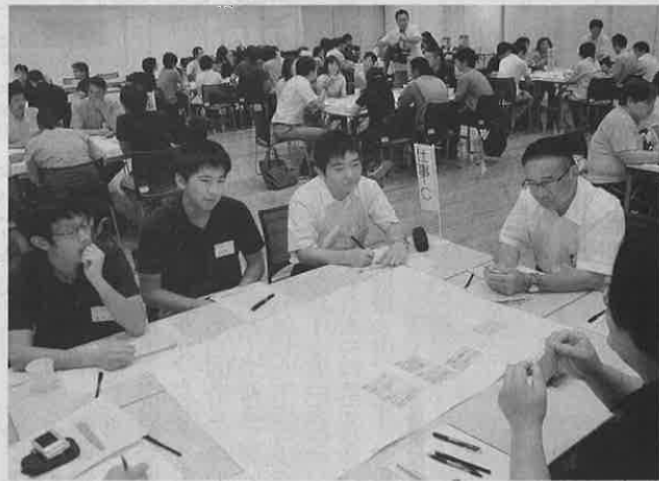
「住み続けたい日田市にするためには」を大きなテーマに意見交換する参加者。日田市のパトリア日田で開かれた集會の様子。参加者は市の無作為抽出や公募に心した66人。情報提供などを担当する野祐二・市企画部長が「地方創生では地方の企画力、知恵、本気度が問われている。自由な発想を多く出してほしい」とあいさつした。



参加した秋吉直輝さん（27）＝会社員・顔写真＝は「このような集會を何度も繰り返すことで具体的な解決策も出てきてう。行政がどう世代を市に取り込むためう具現化するかも重要」と話した。

解決策探り熱く議論

参加者は「都会のシルバード」を模倣するのではなく、市は策定中の市版総合戦略に議論の成果を役立てる。



「住み続けたい日田市にするためには」を大きなテーマに意見交換する参加者＝日田市のパトリア日田

H27.9.8
大分合同新聞

（佐藤栄宏）

地方創生へ意見交換

初の市民まちづくり集會 日田市

市民目線での将来像アイデアを出し合った。日田市のパトリア日田で開かれた集會の様子。参加者は市の無作為抽出や公募に心した66人。情報提供などを担当する野祐二・市企画部長が「地方創生では地方の企画力、知恵、本気度が問われている。自由な発想を多く出してほしい」とあいさつした。

「市目治基本条例に掲げる「市民参画と協働のまちづくり」を進めよう」と、市が初めて企画。移住や定住の促進などを検討する分科会では、移住者に対するサポート態勢の必要性を説く声や、「地域の風習などを伝える移住マニュアルを作成してはどうか」との意見もあった。

地域おこしの一例として、農産物など地元で生み出されるものを「日田ブランド」として売り出す新たな認証制度の創設といった提案もあったほか、育児などを話し合う分科会では、閉校の小学校に日田材を使ったアスレチック場を整備してはどうか、などのアイデアも出た。今回提案された意見やアイデアについて、市は地方創生プランとして来春3月までに策定する。まち・ひと・しごと創生総合戦略に反映させる方針。

H27.9.6
西日本新聞